

追悼

酒井尚平

きめ細やかな感受性を持ち、人を愛し人を活かすロマンチストでした。初対面で、私が山岳部出身と知り合田さんは妙高笹ヶ峰ヒュッテで、奥さまと出会ったと語りました。晩年文通し最後の手紙にはモーツァルトと小林秀雄のこと、奥さまとご一緒された高原を詠った詩「山を想う」が書かれていました。作画三十年多作でした。森や林をユニークな緑色で。故郷の讃岐富士は山容が水面に映る秀作です。自家出版「同行二人ゴルフ88カ所巡行」の文章 絵 地図全て自筆。ワープロ世代には驚きですがご本人はきめ細かさを楽しんだのでしょう。彩遊会の京都スケッチ合宿で彼は世話役でした。市内のお勧めポイントを色鮮やかに自作した地図を配りました。宴会は美濃吉竹茂楼と気配り満点、感心して地図と美濃吉のマッチを記念に持っています。DFでは彼の企画、私の基調講演、主婦連と生協をパネラーに招いた拓殖大学市民セミナーが印象に残ります。そして、大学出講、食と農業研、彩遊会と多分野で活動する機会をいただきました。合田さん、ご厚誼と思い出ありがとうございましたね。忘れます。告別の曲、ドボルザーク新世界より家路を選ばましたね。忘れません。